

## 生まれ変わった「熊野高原ファーム（里山の再生）」

熊野町議会議員 伊藤真由美

「倒れまーす！」竹をのこぎりで1本1本切り倒すかけ声が響く。大きな竹を切るときは人の上に倒れては危険なのでかけ声をかける。今日は作業日の定例会。毎月第三月曜日、宮岡さんを中心とする「サポート・トレッキング・グループ」約20人のメンバーが、熊野町にある我が家の山を整備してくださっている。

そもそもの始まりは、30年ほど前は桃園であった山すそに、竹がはびこるようになり、その対策として近年竹炭を焼いたり、近所の方と少しずつ整備して果実を植えて、ゆくゆくは高原ファーム構想をと、進めていた。ところが、近所の方2,3人では、なかなか思うように計画ははかどらないまま、何年か過ぎてゆくとまた竹がはびこり中断していた、という経緯がある。そうしていると、一昨年、宮岡さんを中心とする「サポート・トレッキング・グループ」のみなさんが、月一で、ボランティアを引き受けてくださった。

それからというもの、月一での作業でありながら、山は見違えるようにドンドンと整備されていった。暑い日も寒い日も、グループのみなさんは汗を流して一生懸命に作業くださる。切った竹は、宮岡さんのアイデアで、竹チップにして、堆肥に再生利用している。従来あった井戸も復活だ。おいしい山の井戸水が出るようになると、いろいろと助かる。山小屋は、畳を敷き修理し手作りのいろりを置いて、作業中の休憩場所として大活躍。さらに、木々には、丁寧に木の名札がつけられ、頂上までの遊歩道も整備されつつある。我が家の山はこの2年で、驚くほど生きいきとした表情に生まれ変わっている。これからは、遊歩道を開放して多くの方々に山を楽しんでいただく予定である。これからも、宮岡さんやみなさんに支えていただきながら、熊野高原ファーム計画を実行していく中で、山の荒廃に悩んでいる多くの方々に、里山の再生・有効利用の一例にでもなればと願っている。

本誌をお読みのみなさんも、よかったら是非一度、「熊野高原ファーム」にお越しになりませんか？緑も空気もとてもおいしいですよ。生まれ変わった山がみなさんをおまちしています。